

新社会

つくば

発行：新社会つくば

TEL 029-857-1154 FAX857-1254

金子 かずお気付

[kaneko@max.hi-ho.ne.jp](mailto:kaneko@max.hi-ho.ne.jp)

<http://kanekokazuo.hakurakuryo.org/>

2019年 9月17日 1137号



つくば市では、9月14日（土）、台風15号の通過により大きな被害を受けた千葉県千葉市からの要請を受け、以下の支援物資を届けました。

支援物資は、ブルーシート500枚と土のう袋500枚（2トン車1台分）、2名の市職員がつくば市役所から現地（千葉市中央区役所）に向け出発しました。

### ILO 総会で「仕事の世界における暴力とハラスメントを禁止する」条約が採択される

今年にはILO（国際労働機関）創立100周年にあたるそうです。

その記念すべき総会で職場での暴力やハラスメントを全面的に禁止する、初めての国際条約が採択されました。

今後、各国が条約を批准し、職場での暴力やハラスメントの根絶につながるか注目されると思います。

ILOは、セクハラや性暴力を告発する「#MeToo」運動が世界的に広がっていることを背景に、職場での暴力やハラスメントを禁止する新たな国際条約について去年から本格的に議論を始め、ジュネーブで6月に開いた総会で加盟国や労働組合、それに経営者団体が参加して採決を行いました。

採決では、加盟国の政府に2票、労働組合と経営者団体にそれぞれ1票ずつ投票権が割り当てられ、結果、条約は賛成439、反対7、棄権30と、圧倒的多数の支持を得て、採択されました。日本から参加した政府と労働組合の連合は支持に回った一方で、経済界の経団連は棄権しました。

今後、ILOの187の加盟国はそれぞれ条

約を批准するか検討し、批准した国は、条約に沿った国内法を整備していくことが求められていて、職場での暴力やハラスメントの根絶につながるか注目されます。ILOが、職場での暴力やハラスメントを全面的に禁止する初めての国際条約を採択した背景には、セクハラや性暴力を告発する「#MeToo」が世界的に広がり、女性に限らずすべての人に対する暴力やハラスメントを許さない風潮が高まったことがあります。

条約の制定を目指す話し合いの中で、ヨーロッパなどすでに国内法を整備が整っている国は条約を支持する一方、アメリカやロシア、それに経営者団体などは慎重な姿勢を示していました。日本政府を代表して参加した厚生労働省の麻田千穂子国際労働交渉官は、「仕事の世界での暴力やハラスメントについて国際的な労働基準が初めてできた意義はとても大きい。国内政策でも今、私たちは職場のハラスメントをなくそうと一生懸命取り組んでいるところで、まさに方向が一致している」と述べ、条約の採択を歓迎しました。

一方で、日本が条約を批准するかどうかについては、「条約の採択に賛成するかどうかということとは次元の違う話で、国内法と条約の求めるものの整合性について、さらに検討していかなければならない」と述べ、今後、関係する省庁とともに慎重に議論を進めていく考えを示しました。

ILOの187の加盟国はそれぞれ条約を批准するか検討し、批准した国は、条約に沿った国内法を整備していくことが求められている。一日も早く日本政府が条約を批准することを求めます。

## 家庭内暴力、止める方法あり⑤

「あなたが嫌」なのではない

### ――避難の注意点は？

避難では、何カ月も続けたり、結局別居したりしてしまう人がいますが、これは逆効果でしかない。私が言う避難は、家に早く帰るための避難です。くれぐれも長期化しすぎないように考えてください。ポイントは、予告したら必ずその日のうちに避難すること。暴れている最中は、追いかけてくるので、逃げられません。暴れまくって、一段落したら、避難する。できれば、タクシーなどを呼んで避難すると、他人がいるので、追いかけてきません。そのために、あらかじめ避難の準備と避難先の確保が必要です。実家や短期賃貸マンションでも構いません。とにかく家ではない別の場所に行く、というパフォーマンスが大事です。

### 避難したらすぐ電話

避難したら、すぐ避難先から電話してください。何をしゃべるか。「暴力が嫌だから逃げたけれど、あなたが嫌だから逃げたわけじゃない」と、必ず伝えてください。言わないと、本人は「とうとう親から捨てられた」と思い込んで、自暴自棄になって自傷行為をしたり、また何かを損壊したりする恐れがあります。それを防ぐために「見捨てたわけではないんだ」というメッセージをしっかりと伝えて頂きたいと思います。

電話すると、本人は謝ってくると思いますが、直後はすごく反省している。泣かんばかりに謝って、「もう絶対にしないから、帰ってきてほしい」などと言われると思います。これで、ほだされて帰ってしまうと、2、3日はおとなしくても、すぐに戻ってしまいます。反省をしっかりと刻むためには、時間が必要です。私の基準では、1、2週間。そのぐらいで、かなり定着します。逆に、長すぎるのも問題です。1、2カ月

もすると、恨みがぶり返してきて、また暴れ出す可能性が高いからです。

### ――その後は？

電話は毎日いれて下さい。だんだん落ち着いてきたところに一時帰宅をする。これもパフォーマンスです。「あなたが本当に暴力を振るわないか確かめに来ました」と、わざとやるわけです。1泊で構いません。そこで暴れる人は、まずいない。一時帰宅を繰り返し、おとなしくなれば「もう暴力が起こらないと分かったので、帰りますよ」と言って、ちゃんと帰る。そのように順番に進めていけば、大概の暴力は収めることができます。

### 入院を検討するのは最後

私はすべての現場で、この方針でやっており、ほとんどの暴力は沈静化します。理屈は非常に簡単です。手順もそれほど難しくありません。通報や避難を思い切って踏み切るのが一番難しいかもしれませんが、でも、何年も暴力に苦しんで、双方がボロボロに傷つくよりは、早い段階で思い切ってやるほうが、本人も暴力を諦められる。「うちでは暴力は振るえない」と諦めることが、安定につながります。振るわせないのではなく、振るわなくて済む環境を作るという事です。本人は暴力を振るえなくなって、ホッとする部分もある。これは薬物中毒の人が、逮捕されてホッとすると似ています。好きでやっているわけじゃない。嫌でしょうがなく、やめる口実が欲しい。それを与えるための拒否なんです。

これらがすべて失敗したときに、はじめて入院などが検討課題になります。ただ、同意がない入院では、状況は全く改善しません。病院や施設に入れた場合、本人にはトラウマが残り、帰ってくると親子間の断絶は前よりも激しくなります。断絶ですめばいいが、報復の恐れもあるため、本当に慎重にする必要があります。

(つづく)